

〈研究ノート〉

エンディングノートに必要な項目の性差について^{1,2}

下島 裕美・照屋 浩司

Abstract

50～70代男女を対象にエンディングノート（EN）に必要な項目に関する Web 調査を実施した。その結果、全体の 8 割以上が必要だと回答した項目は「終末期治療の希望」「財産一覧」「遺言・相続」「葬儀の希望」「メッセージ・感謝」であった。また「健康情報」「介護・看護の希望」「臓器移植の意思表示」「遺影の写真」「連絡先」等、性差がある項目があった（男性で少なく女性が多い）。「自分が書く EN に必要だと思う項目」と「家族が書く EN に必要だと思う項目」への回答をもとに「両方に必要」「自分が書く EN にだけ必要」「家族が書く EN にだけ必要」「両方に必要ない」に分類したところ、女性は「両方に必要」が多く男性は「自分だけに必要」「両方必要ない」が多い項目が存在した（「介護・看護の希望」「臓器提供の意思表示」等）。他者の介護・看取りという性役割がエンディングノートに必要な項目に影響している可能性が示唆された。

キーワード：エンディングノート，性差，年代差，性役割

1. はじめに

自分に「もしも」のことがあった場合に必要のことを記しておくノートをエンディングノートという。日本で出版されているエンディングノートの項目は多様であり、医療情報や財産以外にも感謝やメッセージ、過去の思い出、遺影の写真など様々な項目の記入欄がある（下島, 2014, 2015）。そこで本研究では、エンディングノートに必要なと思う項目について、年代差（50代、60代、70代）と性差の視点から検討する。

エンディングノートは自分の死後に残された家族のために書くものが多いが、自分が必要だと感じている項目と残された家族が必要だと感じている項目が一致しているとは限らない。特に日本では看取りは女性の性役割として捉えられており、高齢者を介護するのは妻・嫁・娘であった（伊藤・大野・平山・上野, 2017）。主な介護者は同居の「配偶者」「子」「子の配偶者」が 54.4%，別居の家族が 13.6%であり、同居の主な介護者のうち 65%が女性である（厚生労働省, 2019）。実際に高齢者の介護・看取りを経験した女性達と、母親の姿をみてきた娘達にとって、将来介護や看取りを役割とする自分自身が困らないための情報は何か、自分を看取る娘・嫁が困らないための情報は何かは切実な問題である。家族の介護・看取りの役割を自分のものとして捉えている女性と、介護・看取りは妻・嫁の役割として捉えている男性とでは、エンディングノートに必要なと思う項目は異なるであろう。そこで本研究では、自分の死後に残された家族のために自分が書くエンディングノートに必要なと思う項目と、家族の死後に自分が必要とする項目の性差を検討する。

なお、本研究の調査は下島が実施し、分析と考察は下島と照屋が共同で行った。

2. 方法

2.1 調査対象者と手続き

Web 調査会社である一般社団法人新情報センターを通して調査を実施した。調査対象者は日本居住の 450 名 (50・60・70 代男女各 75 名) であった。本調査は杏林大学保健学部倫理審査委員会の審査を経て、2018 年 1 月に実施した。

2.2 調査項目

調査項目は、性別、年齢、婚姻状況、子供の有無、ペットの有無、居住都道府県、エンディングノートを知っているか (2 択)、書いたことがあるか (「最後まで書いたことがある」「書き始めたが途中でとまっている」「書こうとして手元にあるが書いていない」「書こうと思うがまだ手元にないので書いていない」「書こうと思わない」の 5 択)、関心があるか (2 択)、自分がエンディングノートを書く時に必要だと思う 21 項目それぞれに「必要」「必要ない」の 2 択 (健康情報、介護・看護の希望、終末期治療の希望、臓器提供の意思表示、財産一覧、遺言・相続、葬儀の希望、遺影の写真、墓・供養の希望、自分の好きなこと・特技、夢や目標、生まれかわったらどうしたいか、経歴、メッセージ・感謝、過去の思い出、死後気がかりなこと・やってほしいこと、家系図、慶事命日、連絡先、ペットの管理、携帯電話やインターネット情報の管理とその他があれば自由記述)、自分の家族がエンディングノートを書く時に必要だと思う項目 (同上 21 項目)、エンディングノートに書く過去の思い出 (500 字以内) とその記憶特性、日本版 TALE 尺度 (落合・小口, 2013) であった。本論文ではこれらの質問のうち、エンディングノートを知っていたか、書いたことがあるか、関心があるか、自分・家族がエンディングノートを書く時に必要な項目 (21 項目) の分析を行った。

2.3 分析

対象者を性別と年齢により 6 群に分け (50 代男性, 60 代男性, 70 代男性, 50 代女性, 60 代女性, 70 代女性), 各質問項目への回答をクロス集計表にまとめた。更に「自分が書くエンディングノート」と「家族が書くエンディングノート」に必要な項目に対する回答によって「両方に必要」「自分が書くエンディングノートだけに必要」「家族が書くエンディングノートだけに必要」「両方に必要ない」の 4 群に分け、性別によるクロス集計表にまとめた。SPSS ver.27 を用いて χ^2 検定を実施し、結果が有意であった場合は残差分析を行った。

3. 結果

3.1 エンディングノートを知っているか、書いたことがあるか、関心があるか

対象者群毎のエンディングノートを知っていた割合と関心がある割合を Table 1 に示す。全体で 88% が知っている と回答し、82.2% が関心があると回答した。エンディングノートを知っているかどうかと対象者群の分析結果は有意であった ($\chi^2(5) = 21.717, p < .01$)。残差分析の結果、60 代男性 (76%) は有意に少なく、60 代女性 (97.3%) は有意に多かった。関心の有無と対象者群の分析結果は有意であった ($\chi^2(5) = 15.993, p < .01$)。残差分析の結果、50 代男性 (70.7%) は有意に少なく、70 代女性 (93.3%) は有意に多かった。

エンディングノートを書いた経験については、各セルで人数が少ないものがあるため χ^2 分析は行わず Table 2 に対象者群毎の割合を示す。全体的に「書こうと思うがまだ手元にないので書いていない」が多いが、年齢に伴い「最後まで書いたことがある」「書き始めたが途中で止まっている」「書こうとして手元にもっているが書いていない」が増加しており、「書こうと思うが手元にないので書いていない」「書こうと思わない」が減少している。また全年代において男性よりも女性の「最後まで書いたことがある」「書き始めたが途中で止まっている」「書こうとして手元にもっているが書いていない」が多かった。

Table 1 性別年代毎のエンディングノートを知っていた・関心がある割合 (%)

項目	50代		60代		70代		全体
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
知っていた	81.3	90.7	<u>76.0</u>	<u>97.3</u>	92.0	90.7	88.0
関心がある	<u>70.7</u>	84.0	76.0	84.0	85.3	<u>93.3</u>	82.2

note. 太字は残差分析の結果が有意であった項目。下線は有意に小さい項目。

Table 2 年代性別毎のエンディングノートを書いたことがある人の割合 (%)

	50代		60代		70代		全体
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
最後まで書いたことがある	0.0	1.3	4.0	5.3	5.3	6.7	3.8
書き始めたが途中でとまっている	0.0	4.0	5.3	9.3	12.0	12.0	7.1
書こうとして手元にもっているが書いていない	1.3	5.3	5.3	9.3	10.7	30.7	10.4
書こうと思うがまだ手元にないので書いていない	64.0	66.7	56.0	58.7	53.3	44.0	57.1
書こうと思わない	34.7	22.7	29.3	17.3	18.7	6.7	21.6

3.2 自分が書くエンディングノートに必要な項目の年代差と性差

対象者群ごとに、各項目が自分のエンディングノートに必要なだと答えた割合を Table 3 に示す。全体の 8 割以上が必要だと回答したのは「終末期治療の希望」「財産一覧」「遺言・相続」「葬儀の希望」「メッセージ・感謝」、7 割以上が必要だと回答したのは「介護・看護の希望」「臓器移植の意思表示」「墓・供養の希望」「連絡先」「携帯電話やインターネット情報の管理」であった。必要が 3 割以下だった項目は「好きなこと・特技」「夢や目標」「生まれ変わったらどうしたいか」「経歴」「過去の思い出」「家系図」「慶事命日」「ペットの管理」であった。

項目毎の χ^2 検定の結果を Table 3 に示す。

健康情報 全体で 66.4%が必要だと回答した。50 代男性が有意に少なく (45.3%)、70 代女性が有意に多かった (80%)。

介護・看護の希望 全体で 78.4%が必要だと回答した。50 代男性は有意に少なく (64%)、70 代女性は有意に多かった (90.7%)。

終末期治療の希望 全体で 93.3%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

臓器移植の意思表示 全体で 77.1%が必要だと回答した。70 代男性 (60%) は有意に少なく、50 代女性 (89.3%) は有意に多かった。

財産一覧 全体で 88.9%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

遺言・相続 全体で 86.4%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

葬儀の希望 全体で 88%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

遺影の写真 全体で 63.6%が必要だと回答した。50代男性 (42.7%) と 70代男性 (52%) が有意に少なく、50代女性 (80%) が有意に多かった。

墓・供養の希望 全体で 76.7%が必要だと回答した。70代男性 (62.7%) は有意に少なかった。

自分の好きなこと・特技 全体で 19.8%が必要だと回答した。50代男性 (10.7%)、60代男性 (10.7%) が有意に少なく、70代女性 (37.3%) が有意に多かった。

夢や目標 全体で 17.1%が必要だと回答した。50代男性 (9.3%) が有意に少なく、70代女性 (33.3%) が有意に多かった。

生まれ変わったらどうしたいか 全体で 6.9%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

経歴 全体で 29.6%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

メッセージ・感謝 全体で 80.9%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

過去の思い出 全体で 28.4%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

死後気がかりなこと・やってほしいこと 全体で 68.2%が必要だと回答した。70代男性 (54.7%) が有意に少なく、50代女性 (84%) が有意に多かった。

家系図 全体で 21.3%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

慶事命日 全体で 24%が必要だと回答した。50代男性 (14.7%) が有意に少なく、70代女性 (38.7%) が有意に多かった。

連絡先 全体で 75.3%が必要だと回答した。50代男性 (65.3%) が有意に少なく、70代女性 (85.3%) が有意に多かった。

ペットの管理 全体で 27.6%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。ペットの有無と必要性の回答について χ^2 検定を行ったところ結果は有意であった ($\chi^2 (1) = 111.934, p < .01$)。ペット有群は必要が有意に多く (60.7%)、ペット無群は必要が有意に少なかった (12.6%)。男性のみで分析した結果も有意であり ($\chi^2 (1) = 45.630, p < .01$)、ペット有群は必要が有意に多く (52.7%)、ペット無群は必要の回答が有意に少なかった (11.3%)。女性のみで分析した結果も有意であり ($\chi^2 (1) = 69.012, p < .01$)、ペット有群は必要が有意に多く (69.7%)、無群は必要が有意に少なかった (13.8%)。ペット有群のみで性別と必要性の χ^2 検定を行った結果は有意であった ($\chi^2 (1) = 4.224, p < .05$)。男性は必要 (52.7%) が有意に少なく、女性は必要 (69.7%) が有意に多かった。

携帯電話やインターネット情報の管理 全体で 70.7%が必要だと回答した。分析の結果は有意ではなかった。

関連があった主な結果 50代男性で少なく 70代女性で多い項目が複数存在した (「健康情報」「介護・看護の希望」「好きなこと・特技」「夢や目標」「慶事命日」「連絡先」)。

Table 3 自分が書くエンディングノートに必要な項目の割合(%)

項目	50代		60代		70代		全体	$\chi^2(5)$
	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
健康情報	45.3	72.0	61.3	73.3	66.7	80.0	66.4	24.69 **
介護・看護の希望	64.0	84.0	76.0	82.7	73.3	90.7	78.4	19.46 **
終末期治療の希望	90.7	96.0	92.0	94.7	90.7	96.0	93.3	ns
臓器移植の意思表示	82.7	89.3	73.3	80.0	60.0	77.3	77.1	21.06 **
財産一覧	90.7	92.0	90.7	89.3	80.0	90.7	88.9	ns
遺言・相続	89.3	92.0	88.0	84.0	78.7	86.7	86.4	ns
葬儀の希望	90.7	90.7	86.7	85.3	80.0	94.7	88.0	ns
遺影の写真	42.7	80.0	62.7	72.0	52.0	72.0	63.6	31.85 **
墓・供養の希望	74.7	84.0	70.7	84.0	62.7	84.0	76.7	16.66 **
好きなこと・特技	10.7	25.3	10.7	13.3	21.3	37.3	19.8	25.95 **
夢や目標	9.3	22.7	14.7	12.0	10.7	33.3	17.1	22.64 **
生まれ変わったらどうしたいか	5.3	12.0	6.7	2.7	4.0	10.7	6.9	ns
経歴	29.3	24.0	29.3	20.0	32.0	42.7	29.6	ns
メッセージ・感謝	77.3	86.7	80.0	77.3	76.0	88.0	80.9	ns
過去の思い出	25.3	22.7	26.7	22.7	37.3	36.0	28.4	ns
死後気がかりなこと・やってほしいこと	69.3	84.0	69.3	61.3	54.7	70.7	68.2	16.90 **
家系図	21.3	14.7	22.7	16.0	21.3	32.0	21.3	ns
慶事命日	14.7	16.0	24.0	28.0	22.7	38.7	24.0	15.79 **
連絡先	65.3	84.0	72.0	76.0	69.3	85.3	75.3	13.02 *
ペットの管理	33.3	36.0	21.3	25.3	20.0	29.3	27.6	ns
携帯電話やインターネット情報の管理	62.7	78.7	65.3	74.7	65.3	77.3	70.7	ns

note. 太字は残差分析の結果が有意であった項目。下線は有意に小さい項目。

* $p < .05$, ** $p < .01$

Table 4. 自分が書くエンディングノートと家族が書くエンディングノートに必要な項目の割合(%)

		自分も 家族も 必要	自分だけ 必要	家族だけ 必要	両方 必要ない	$\chi^2(3)$
健康情報	男性	<u>47.1</u>	10.7	5.3	36.9	24.9 **
	女性	66.7	8.4	7.6	<u>17.3</u>	
介護・看護の希望	男性	<u>62.7</u>	8.4	5.3	23.6	22.7 **
	女性	82.2	<u>3.6</u>	4.0	<u>10.2</u>	
終末期治療の希望	男性	<u>85.2</u>	5.8	1.8	7.1	10.2 *
	女性	93.3	2.2	2.2	<u>2.2</u>	
臓器移植の意思表示	男性	<u>61.3</u>	10.7	7.6	20.4	19.5 **
	女性	79.1	<u>3.1</u>	4.9	<u>12.9</u>	
財産一覧	男性	<u>75.1</u>	12.0	1.3	11.6	18.9 **
	女性	87.1	<u>3.6</u>	3.6	<u>5.8</u>	
遺言・相続	男性	<u>77.3</u>	8.0	3.6	11.1	14.6 **
	女性	86.7	<u>0.9</u>	3.6	8.9	
葬儀の希望	男性	<u>76.4</u>	9.3	1.8	12.4	15.8 **
	女性	85.8	<u>4.4</u>	4.9	<u>4.9</u>	
遺影の写真	男性	<u>44.9</u>	7.6	10.2	37.3	28.7 **
	女性	69.8	4.9	5.8	<u>19.6</u>	
墓・供養の希望	男性	<u>60.4</u>	8.9	8.0	22.7	15.3 **
	女性	74.2	9.8	6.2	<u>9.8</u>	
好きなこと・特技	男性	<u>8.4</u>	5.8	6.2	79.6	9.4 *
	女性	14.7	10.7	7.1	<u>67.6</u>	
夢や目標	男性	<u>5.3</u>	6.2	3.6	84.9	10.7 *
	女性	12.0	10.7	4.4	<u>72.9</u>	
生まれ変わったらどうしたいか	男性	3.6	1.8	2.7	92.0	ns
	女性	4.9	3.6	6.2	85.3	
経歴	男性	21.3	8.9	2.7	67.1	ns
	女性	20.9	8.0	5.8	65.3	
メッセージ・感謝	男性	<u>59.6</u>	18.2	2.7	19.6	9.2 *
	女性	72.9	<u>11.1</u>	1.8	14.2	
過去の思い出	男性	22.7	7.1	4.4	65.8	ns
	女性	22.2	4.9	7.1	65.8	
死後気がかりなこと・やってほしいこと	男性	57.3	7.1	9.3	26.2	ns
	女性	64.4	7.6	10.2	17.8	
家系図	男性	14.2	7.6	2.7	75.6	ns
	女性	16.4	4.4	4.4	74.7	
慶事命日	男性	16.4	4.0	4.9	74.7	ns
	女性	21.3	6.2	8.9	63.6	
連絡先	男性	<u>61.8</u>	7.1	8.0	23.1	12.2 **
	女性	74.2	7.6	7.1	<u>11.1</u>	
ペットの管理	男性	21.8	3.1	8.0	67.1	ns
	女性	24.9	5.3	9.3	60.4	
携帯電話やインターネット情報の管理	男性	<u>53.3</u>	11.1	3.6	32.0	19.6 **
	女性	70.7	6.2	5.8	<u>17.3</u>	

note. 太字は残差分析の結果が有意であった項目。下線は有意に小さい項目。

* $p < .05$, ** $p < .01$

3.3 自分が書くエンディングノートに必要な項目と家族が書くエンディングノートに必要な項目の性差

性別と項目毎に「自分が書くエンディングノートと家族が書くエンディングノートの両方に必要」「自分が書くエンディングノートにだけ必要」「家族が書くエンディングノートにだけ必要」「両方に必要ない」に分類された対象者の割合と分析結果を Table 4 に示す。

健康情報 「両方に必要」は男性（47.1%）が有意に少なく、女性（66.7%）が有意に多かった。「両方に必要ない」は男性（36.9%）が有意に多く、女性（17.3%）が有意に少なかった。

介護・看護の希望 「両方に必要」は男性（62.7%）が有意に少なく、女性（82.2%）が有意に多かった。「自分が書くものにだけ必要」は男性（8.4%）が有意に多く、女性（3.6%）が有意に少なかった。「両方に必要ない」は男性（23.6%）が有意に多く、女性（10.2%）が有意に少なかった。

終末期治療の希望 「両方に必要」は男性（85.2%）が有意に少なく、女性（93.3%）が有意に多かった。「両方に必要ない」は男性（7.1%）が有意に多く、女性（2.2%）は有意に少なかった。

臓器移植の意思表示 「両方に必要」は男性（61.3%）が有意に少なく、女性（79.1%）が有意に多かった。「自分だけ必要」は男性（10.7%）が有意に多く女性（3.1%）が有意に少なかった。「両方に必要ない」は男性（20.4%）が有意に多く、女性（12.9%）が有意に少なかった。

財産一覧 「両方に必要」は男性（75.1%）が有意に少なく、女性（87.1%）が有意に多かった。「自分だけ必要」は男性（12%）が有意に多く、女性（3.6%）は有意に少なかった。「両方必要ない」は男性（11.6%）が有意に多く、女性（5.8%）は有意に少なかった。

遺言・相続 「両方に必要」は男性（77.3%）が有意に少なく、女性（86.7%）が有意に多かった。「自分だけ必要」は男性（8%）が有意に多く、女性（0.9%）は有意に少なかった。

葬儀の希望 「両方に必要」は男性（76.4%）が有意に少なく、女性（85.8%）が有意に多かった。「自分だけ必要」は男性（9.3%）が有意に多く、女性（4.4%）が有意に少なかった。「両方に必要ない」は男性（12.4%）が有意に多く、女性（4.9%）は有意に少なかった。

遺影の写真 「両方に必要」は男性（44.9%）が有意に少なく、女性（69.8%）は有意に多かった。「両方に必要ない」は男性（37.3%）が有意に多く、女性（19.6%）は有意に少なかった。

墓・供養の希望 「両方に必要」は男性（60.4%）が有意に少なく、女性（74.2%）は有意に多かった。「両方に必要ない」は男性（22.7%）が有意に多く、女性（9.8%）は有意に少なかった。

自分の好きなこと・特技 「両方に必要」は男性（8.4%）が有意に少なく、女性（14.7%）は有意に多かった。「両方に必要ない」は男性（79.6%）が有意に多く、女性（67.6%）は有意に少なかった。

夢や目標 「両方に必要」は男性（5.3%）が有意に少なく、女性（12%）は有意に多かった。「両方に必要ない」は男性（84.9%）が有意に多く、女性（72.9%）は有意に少なかった。

った。

生まれ変わったらどうしたいか 分析の結果は有意ではなかった。男性 (92%)、女性 (85.3%) とも「両方に必要ない」が多かった。

経歴 分析の結果は有意ではなかった。男性 (67.1%)、女性 (65.3%) ともに「両方に必要ない」が多かった。

メッセージ・感謝 「両方に必要」は男性 (59.6%) が有意に少なく、女性 (72.9%) が有意に多かった。「自分だけ必要」は男性 (18.2%) が有意に多く、女性 (11.1%) は有意に少なかった。

過去の思い出 分析の結果は有意ではなかった。男性 (65.8%)、女性 (65.8%) ともに「両方に必要ない」が多かった。

死後気がかりなこと・やってほしいこと 分析の結果は有意ではなかった。男性 (57.3%)、女性 (64.4%) ともに「両方に必要」が多かった。

家系図 分析の結果は有意ではなかった。男性 (75.6%)、女性 (74.7%) ともに「両方に必要ない」が多かった。

慶事命日 分析の結果は有意ではなかった。男性 (74.7%)、女性 (63.6%) ともに「両方に必要ない」が多かった。

連絡先 「両方に必要」は男性 (61.8%) が有意に少なく、女性 (74.2%) が有意に多かった。「両方に必要ない」は男性 (23.1%) が有意に多く、女性 (11.1%) は有意に少なかった。

ペットの管理 分析の結果は有意ではなかった。男性 (67.1%)、女性 (60.4%) ともに「両方に必要ない」が多かった。

携帯電話やインターネット情報の管理 「両方に必要」は男性 (53.3%) が有意に少なく、女性 (70.7%) が有意に多かった。「両方に必要ない」は男性 (32%) が有意に多く、女性 (17.3%) は有意に少なかった。

性差のあった主な項目 「両方に必要」で男性が少なく女性が多く「両方に必要ない」で男性が多く女性が少ない項目は、「健康情報」「介護・看護の希望」「終末期治療の希望」「臓器移植の意思表示」「財産一覧」「葬儀の希望」「遺影の写真」「墓・供養の希望」「好きなこと・特技」「夢や目標」「連絡先」「携帯電話やインターネット情報の管理」であった。また「自分だけに必要」で男性が多く女性が少ない項目は「介護・看護の希望」「臓器移植の意思表示」「財産一覧」「遺言・相続」「葬儀の希望」「メッセージ・感謝」であった。

4. 考察

自分が書くエンディングノートに必要な項目において全体の8割以上が必要だと回答した「終末期治療の希望」「財産一覧」「遺言・相続」「葬儀の希望」「メッセージ・感謝」では性差はみられなかった。これらの項目は、年代・性別に関わらず多くの人が必要性を感じている項目であることが示された。

年代・性別に関わらず全体の3割以下しか必要だと回答しなかった項目は「生まれ変わったらどうしたいか」「経歴」「過去の思い出」「家系図」であった。「好きなこと・特技」「夢や目標」「慶事命日」は全体では3割以下であるが、70代女性は3割以上が必要だと回答している。「好きなこと・特技」「夢や目標」は「現在あるいは近い未来に関するその

人の情報」であるのに対して、「生まれ変わったらどうしたいか」「経歴」「過去の思い出」「家系図」は現在のその人とは切り離された「来世」「遠い過去」の情報である。エンディングノートに必要なことは「過去」「来世」ではなく「現在」と関係した情報であることがうかがえる。

対象者群との関連がみられた項目として、50代男性で少なく70代女性で多い項目が複数存在した（「健康情報」「介護・看護の希望」「好きなこと・特技」「夢や目標」「慶事命日」「連絡先」）。70代女性は、自分自身が介護を体験したあるいは母親・友人の介護の実体験を見聞きしていることが予想される。「健康情報」「介護・看護の希望」は介護において必要な項目であることを経験から知っていたのであろう。「好きなこと・特技」「夢や希望」「連絡先」は、葬儀等大切な人を見送る儀式で故人を懐かしむために有益な情報であり、自分が故人となった時に家族に回想してもらうための情報として必要だと知っていたのであろう。家族の「慶事命日」はこれまで年長の女性として自身が担ってきたが、今後その役割を担うことになる家族に必要な情報だと判断したのであろう。50代男性はまだ若く自身の死を具体的に展望しにくいことと、介護や看取りの体験が乏しく親・友人の体験を見聞きする機会も少ないことから、リビング・ウィルのような内容と財産、相続への意識が高かったのであろう。

ペットの管理でも性差がみられた。ペットを飼っている男性の半数しか「必要」と回答しなかったのは、自分の死後も妻・娘がペットを飼育し続けるという認識の表れではないだろうか。現代においてペットは「コンパニオン・アニマル」「伴侶動物」と呼ばれる家族の一員であり、動物の愛護及び管理に関する法律では、ペットを最後まで責任をもって飼うように定められている（下島・林,2012）。女性にとっては子どものような存在であるが、いつか自立する子どもとは違いペットはいつまでも人間の手が必要な存在である。幼い子どもを残して亡くなる母親のように、ペットの管理についてエンディングノートに記載する必要性を感じているのかもしれない。

自分で書くエンディングノートと家族が書くエンディングノートの回答の結果から、「両方に必要」で男性が少なく「両方に必要ない」では男性が多い項目が複数存在した（「健康情報」「介護・看護の希望」「終末期治療の希望」「臓器移植の意思表示」「財産一覧」「葬儀の希望」「遺影の写真」「墓・供養の希望」「好きなこと・特技」「夢や目標」「連絡先」「携帯電話やインターネット情報の管理」）。「言葉にしなくても妻は自分の希望をわかってくれている」との思いや、家族が書くエンディングノートを必要とするのは妻・嫁・娘であって自分ではないと認識している可能性があるだろう。また「自分のエンディングノートだけに必要」で男性が多い項目も複数存在した（「介護・看護の希望」「臓器移植の意思表示」「財産一覧」「遺言・相続」「葬儀の希望」「メッセージ・感謝」）。「自分が妻よりも先に死ぬ」という先入観を反映している可能性があるだろう。

子育てと同様、家族の介護は女性の役割と捉えられている（伊藤・大野・平山・上野,2017）。本研究の性差は、男性は自分が他者の介護・看取りのキーパーソンとなることを想定せず、自分自身は自分をよく知る妻・娘に介護・看取られることを展望する一方で、女性は自分が家族を介護・看取れることを展望していること、自分を介護・看取る嫁や娘が困らないように必要な情報を伝えようとしていることが関係していると考えられる。

一方で、これまで男性は稼ぎ手、女性は家事・育児・介護の担い手という性別役割分業

が暗黙の前提となってきたが、少子高齢化により今後の労働力の不足が予測され、女性労働者の活用が期待されている。しかし外で働き家庭で介護も担うという女性の多重役割はワーク・ファミリー・コンフリクトを引き起こし、仕事満足感や家庭満足感、生活全体の満足感を低下させ、精神的健康の低下を引き起こす恐れがある（金井, 2002）。更に近年は妻・娘では介護を担いきれなくなり、これまで介護に登場しなかった息子が介護を担うようになってきた。介護時間が「ほとんど終日」の同居の主な介護者の割合は、配偶者（女）40.9%, 配偶者（男）14.0%, 子（女）19.8%, 子（男）11.8%, 子の配偶者（女）7.3%である（厚生労働省, 2019）。しかし息子の介護にはそのお膳立てを妻や姉妹が目立たずに行っていることもあり、男性が自立的・自律的にケア役割を果たせるようになることが必要であろう（伊藤・大野・平山・上野, 2017）。また、男性も家事・育児・介護というケア役割を担う時代になった現在、「男らしさ」規範への捉われは男性の役割葛藤につながる可能性がある（柏木, 2008）。ジェンダー規範は女性だけの問題ではなく男性にとっての問題でもあることを男性自身が意識することで、本当の男女共同参画が実現するのではないだろうか。

利益相反

本論文に関する利益相反はない。

引用文献

- 伊藤裕子・大野祥子・平山亮・上野千鶴子 (2017). ケア役割を問うー男性がケアに関わる時ー 教育心理学年報, **56**, 282-290.
- 金井篤子 (2002). ワーク・ファミリー・コンフリクトの規定因とメンタルヘルスへの影響に関する心理的プロセスの検討 産業・組織心理学研究, **15**, 107-122.
- 柏木恵子 (2008). ジェンダー視点に立つ男性の心理学の課題ーなぜ「男性の心理学」なのかー 柏木恵子・高橋恵子 (編著) 日本の男性の心理学ーもう1つのジェンダー問題ー 有斐閣 Pp. 1-23.
- 厚生労働省 (2019). 2019年国民生活基礎調査の概況.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/05.pdf>,
2021年10月27日参照.
- 下島裕美 (2014). 死という未来を展望するために必要なものは何かー自伝的記憶とエンディングノートー 杏林大学研究報告教養部門, **31**, 53-58.
- 下島裕美 (2015). 終末期に向けた思考整理ツールとしてのエンディングノート 杏林大学研究報告教養部門, **32**, 1-7.
- 下島裕美・林絵里香 (2012). ペットに対する態度とペットの弔い方法の関係について 杏林大学研究報告教養部門, **29**, 29-37.

¹ 本研究はJSPS 科研費（基盤研究（C）K1604314）の助成を受けた。

² 本研究の一部は第24回日本臨床死生学会で発表した。

下島 裕美 (しもじま ゆみ) 東京通信大学 人間福祉学部 非常勤講師
照屋 浩司 (てるや こうじ) 杏林大学 保健学部 教授

